

1974年伊豆半島沖地震から50年の教訓並びに 令和6年能登半島地震被害を中心に

1974年伊豆半島沖地震は、伊豆半島南端にある**石廊崎断層**の活動によります。この断層の次の活動は数百年後なので、災害の危険性は低いです。一方、下田沖の推定断層は、約3000年前、西暦1000-1270年、1430-1660年、1506-1815年(おそらく1729年の地震)の計4回の活動があり、下田周辺を隆起させてました(Kitamura+, 2015)。活動履歴を考慮すると、この断層の活動には、注意が必要です。

伊豆半島の地震被害の想定には、2024年元日の**能登半島地震**の災害の状況が参考になります。**半島という点で共通する**からです。そこで、能登半島地震の災害の状況を紹介します。

1974年5月9日に発生した**伊豆半島沖地震**では、地表での断層のずれ(最大0.4m程度)が生じました。この断層はおよそ北西-南東方向に延びた右横ずれ断層(**石廊崎断層**)で、前年に地形から断層系の存在が指摘されていた領域の一部で発生しました。

断層が通過した石廊崎や入間(いるま)の集落では破壊された民家が線状に連続します。また中木集落の北方の高畑山山腹に地すべり崩落が発生し、集落を襲って大きな被害をもたらしました。

伊豆半島沖地震

